

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒のニーズを提供する。 生徒のニーズを踏まえた多様な学習機会を提供する。	①夏期講習や放課後の補習等により、生徒の多様な学習ニーズにこたえる。	①夏期講習等を実施することで、生徒の学習ニーズを満足させることができたか。	①夏期講習を夏季休業中に2回設定し、発展的な内容の講習に多くの生徒が受講し、進学意識を高めることができた。ニーズに応じて早朝、放課後の講習、補習を実施した。	①更に講習内容を精査し、進学に対する心構えの意識が高まるようにする。	(保護者) ・課外講習、補習等については今後もより参加しやすく、子どものニーズに合わせて継続してもらいたい。	(学校評価) ・生徒のニーズに応えながら、夏期講習や早朝、放課後の補習を効果的に実施した。 ・教育課程の見直しを進める中で課題がより鮮明となるよう問題点について整理した。 (改善方策等) ・長期休業の日程や部活動との関係を調整しながら、より効果的な講習、補習を実施して行く。 ・生徒のニーズを踏まえて本校の教育活動にふさわしい教育課程の編成を進める。
	②平成28年度以降入学生教育課程の検討を進める。	②生徒の学習意欲の向上と希望進路の実現を可能にさせる新しい教育課程が編成できたか。	②県の高校改革の動きを踏まえて、教育課程改変の時期を再検討することとした。	②高校改革、高大接続改革の動きを見据えて、慎重に検討を進めて行く。	(学校評議員) 県の動きを踏まえながら、金井生のニーズにより一層、的確に応えられる教育課程作成に向けて取り組んでほしい。	
規律ある学校生活を送る中で、思いやりのある豊かな心を育成するとともに、生徒の主体的な活動を促進する。	①基本的な生活習慣確立のため、遅刻指導、頭髪・服装指導等を継続的に行う。	①指導を継続することで基本的な生活習慣が身についたか。	①基本的な生活態度の指導については、身だしなみも含め年間を通して計画的に行うことができた。また、服装の規則について見直しをかけ、より指導しやすい環境を整えつつある。	①身だしなみに関して、特に文化祭の際に派手な染髪をする者が見受けられた。行事の事前事後の指導が課題である。	(保護者) ・学校近隣での自転車事故は少なくなってきた印象がある。自転車通学マナーの向上には引き続きしっかりと取り組んでほしい。	(学校評価) ・様々な機会を捉えて、基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成について指導したが、遅刻については課題が残った。 ・交通安全指導は通学路指導等により、きめ細かく行った。自転車通学の運転マナーについては指導したものの、近隣からの苦情が依然として多い。 ・いじめ未然防止に向けての取組みを、個人面談やいじめアンケート等、様々な機会を捉えながら、丁寧に実施した。スクールカウンセラー参加により、いじめ防止検討会議を効果的に実施することができた。 ・鎌倉養護学校分教室との交流を進めることができた。
	②規範意識醸成のため、HRや集会等での指導や生活系の活動支援等を行う。	②生徒相互の関わりの中で、規範意識の醸成が図れたか。	②遅刻の数が目立つ生徒には随時指導をしてきたが顕著な減少にまでは至っていない。服装については学年集会、普段のHR等を通じ、乱れのないように指導した。挨拶はほぼ習慣化してきている。	②学年が進むにつれ乱れがちな規範意識を引き締めさせるために、常に初心を忘れない気構えを持たせるよう指導の工夫が必要である。	(学校評議員) ・遅刻については3年生になってからの回数が全体的に多い。社会に最も近い学年であるだけにより効果的な指導が望まれる。	
	③交通事故ゼロを目指し、交通安全教室等や継続的な通学路指導を行う。	③交通事故ゼロが達成できたか。	③交通事故ゼロは達成できなかったが、重傷に至る事故はなかった。交通安全教室を、今年度は外部講師を招かず、各学年担当で行った結果、より本校生徒の実態に沿った指導を行うことができた。	③自転車運転マナーについては、依然として苦情の通報があり、マナー意識向上のためにさらに指導を工夫する必要がある。	・鎌倉養護学校分教室との交流は大変意義ある教育活動である。生徒に振り返りをさせ、事前事後での意識の変	

	④いじめの未然防止のための取組みを行うとともに、教育相談体制の充実を図る。	④いじめの未然防止が図れたか。生徒の心の実態把握や教育相談体制充実を進め、自己肯定感や自立心を育むことができたか。	④授業、クラス経営等の教育活動全般を通じて、いじめ防止、早期発見に努めた。いじめ防止検討会議に今年度は初めてスクールカウンセラーを招くことができ、より充実したものとなった。	④いじめ防止に関しては、引き続き教員一人ひとりがアンテナを高く張り続ける努力をすることと、教育相談コーディネーターを含めた、より充実した教育相談体制の確立が必要と思われる。	化を自覚させてほしい。  ・いじめ防止についてはくれぐれも生徒からの視点を見失わないよう注意してほしい。生徒が気軽に相談できるチャンネルを多く用意する必要がある。	・生徒が主体となった委員会活動を目指して指導を進めた。部活動活性化の取組みの中で、関東大会、全国大会出場等の実績を収めることができた。 (改善方策等) ・服装、頭髪等身だしなみに関する指導は根気よく継続して確実に実施して行く。遅刻指導についても、より効果的な方法を模索しながら指導を継続する。 ・交通事故ゼロを引き続き目指して丁寧に指導を進めて行く。また、自転車通学マナー、バス乗車マナー向上のために、きめ細かい指導を継続して実施して行く。 ・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭の連携を進めながら、教育相談体制を充実させる。 ・インクルーシブ教育をより効果的に実施するため、分教室との交流をいっそう充実させる必要がある。 ・生徒主体の行事運営、部活動における礼儀、マナーを身に付けさせる指導を継続して実施して行く。
	⑤鎌倉養護学校金井分教室の生徒との交流等を充実させる。	⑤分教室生徒との交流を充実させ、生徒の満足感を高めることができたか。インクルーシブ教育に関する理解が深まったか。	⑤鎌倉養護学校金井分教室との球技大会や交流会で親睦を深め、本校の生徒にとって普段はできない貴重なふれあいの機会となり、インクルーシブ教育を理解するきっかけを提供できた。	⑤分教室との交流会について日程や内容を精査・検討しながら、インクルーシブ教育への理解をさらに深める努力をする。		
	⑥生徒の成長を促す効果的な行事運営について検討を進め、実践していく。	⑥生徒会行事のより効果的で主体的な運営を行うことができたか。	⑥各委員会では企画・運営の見直しを行いながら、学校行事がめりはりのある内容になるように努めた。	⑥協調性や公民的意識を持ちながら行事の主体的運営を行えるよう、さまざまな機会を捉えて生徒に伝えるようにする。		
	⑦入部率の向上と定着を図り、部活動、特に文化部の活動を支援し活性化させる。	⑦入部率の向上と定着、及び文化部の活性化が図れたか。	⑦部活動では、全国大会や関東大会出場の成果をあげる生徒もおり、各部活動の生徒全体への刺激になり士気を高めることができた。各部員の挨拶やマナーについては、集会等で指導を行った。	⑦部活動の生徒の規律や規範意識の向上については指導を続けていく必要がある。部活動での中学校との交流会や学校説明会などを通して、中学生やその保護者に金井高校部活動の魅力を伝えていく。		
る。授業等の工夫・改善を進め、基礎学力の定着と発展的学習の充実を図	①生徒の学力把握に努めるとともに、身に付けさせたい学力の共通認識を深め、授業内容や教材の共有化、テストの共通化をさらに推進する。	①授業のレベルや速度、教材の共有化やテストの共通化が進み、生徒の学力の把握と向上につながることができたか。	①どの教科も、授業内に小テストや確認テストをこまめに実施するなど、生徒の理解度を把握しながら授業が進められた。また、家庭での学習習慣の定着のため、復習や予習を盛り込んだ課題を出した。定期テストの共通化は概ね実施できた。	①引き続き基礎学力の定着を計るとともに、大学受験に対応できる応用力を身につけられるように、各教科の協力のもと、夏期講習や普段の補講などのあり方を検討する。	(保護者) ・企業においては英語によるコミュニケーションが必須となっている。動機付けを工夫しながら英語教育の更なる充実を望む。	(学校評価) ・授業内容の共有化を各教科で図り、定期試験の共通化を概ね達成した。また、家庭学習習慣の定着を目指して学習指導を進め一定の効果を得た。 ・生徒の主体的な学習活動を推進するために、アクティブラーニングをテーマとした授業研究を期間を決めて実施することができた。 (改善方策等) ・教科会を活用しながら授業
	②自主的・計画的に家庭学習に取り組む工夫を各教科で行う。	②家庭学習の定着が図られたか。	②すべての教科科目で課題や小テストを継続することで学習習慣の定着を図った。	②今後も家庭学習課題を出し、学習習慣の定着を推進して行く。	(学校評議員) ・家庭学習の時間が非常に少ない印象がある。学びの意義を理解させながら学習習慣の定着によりいっそう取	

	③課題解決型の授業の推進を目指し、校内研修や他校や中学校の実践研究を推進する。	③研修や授業研究により、課題解決型の授業を推進できたか。	③年2回実施している授業研究月間では、第2回目で「アクティブラーニングを取り入れた授業展開」をテーマに各教科、生徒を主体とした工夫ある授業が展開された。また、「生徒による授業評価」の結果では、生徒が「授業に対して意欲的に取り組んでいる」という項目の数値が全ての教科で第1回目より上がった。	③授業研究月間ではテーマを明確にして授業改善を行う。また、「生徒による授業評価」の結果を検証して、より良い授業のあり方を追求する。	り組んでほしい。 ・「生徒による授業評価」アンケートの問いについて、調査がより効果的なものになるよう工夫してほしい。	内容や方法、課題の共有化を図り、生徒の理解度を向上させるとともに、家庭における学習時間の増を働きかける。 ・校内研修等の様々な機会を利用して授業内容の向上を目指して、授業研究を推進して行く。
キャリア教育を充実させ、自らの生き方に対する意識を高める	①総合的な学習の時間、HR、教科指導、行事等において、キャリア諸能力の伸長を意識した指導を行う。	①あらゆる教育活動において、教職員の共通理解の元、キャリア能力の伸長を意識した指導が行えたか。	①総合的な学習の時間等を使い、上級学校や進路を意識した活動を行い、キャリア諸能力の向上を図る取組みを行った。	①社会見学の見学先などを利用するなど、キャリア諸能力伸長のために多くの選択肢を探る。さらにテストの結果や振り返りを効果的に活用していく。	(保護者) ・生徒一人ひとりの可能性が開花されるようより一層きめ細かい指導をお願いしたい。  (学校評議員) ・大学では出身高校訪問をさせている場合がある。その機会を利用して卒業生によるキャリア開発を試みてはどうか。 ・指定校推薦で合格した生徒の、家庭学習時間数、学習量が気になる場所である。	(学校評価) ・総合的な学習の時間を始めとし、様々な場面を設定して、生徒のキャリア開発に取り組んだ。 ・ボランティア活動、インターンシップについては部活動等との日程調整に課題が残った。 (改善方策等) ・キャリア諸能力の開発と深化を目指して、あらゆる教育活動を活性化させながら、効果的な方法について工夫検討して行く。 ・ボランティア活動、インターンシップの設定、周知方法を工夫し、生徒の適切な職業観育成につなげて行く。
	②1学年からの進路意識向上の取組みを充実させる。	②1学年からの継続的なキャリア教育により、進路意識が向上したか。	②1年生では社会見学において大学訪問や企業訪問を実施してキャリア開発の意識を高めた。	②さらに生徒の理解、関心を高めるための情報提供の方法を考えたい。		
	③ボランティアやインターンシップ等の体験学習に関する情報提供と計画的な取組を進めるとともに、活動内容を生徒同士で共有することで職業観育成につなげる。	③学校外の学習の機会を保障するとともに、生徒同士の共有の場を設定し、職業観の育成につなげられたか。	③夏期休業中に10人程度の3年生が保育補助等のボランティア活動を保育園で実施した。今年度は、ボランティア活動で単位認定を行ったが、インターンシップについては単位認定まで至らなかった。	③時期的なことや種別を増やすなど、生徒会グループとキャリア設計グループと連携を取り、生徒が参加しやすい環境を整えていく。		
保護者や地域社会と連携し、開かれた学校づくりを推進する。	①学校の魅力を発信する方法や機会を充実させる。	①十分に学校の情報発信が行えたか。	①部活動の詳細な状況がわかるようにホームページの追加修正をした。ホームページ掲載内容の随時更新をタイムリーに行うことができた。	①今後も本校の教育活動を効果的に発信できるよう工夫検討して行く。	(保護者) ・学校の様子が子どもからはなかなか伝わらないので工夫がほしい。  (学校評議員) ・食育には地域から地場産食材を提供している。食育は非常に重要な教育活動であると思う。今後も取り組みを続けてほしい。	(学校評価) ・ホームページの効果的な運営や、内容を工夫した学校説明会等により、本校の魅力についての情報発信を丁寧に行うことができた。 ・地域の方々や生徒、保護者を対象に、食育の取組みを確実に推進することができた。 (改善方策等) ・学校についての情報をより効果的に発信するための方法について工夫する。 ・食育を新たな枠組みの中で推進できるよう取組みを進める。
	②地域の教育力を活かした食育の取組みをさらに推進する。	②地域の学校や施設等と連携した食育の取組みを充実させることができたか。	②千秀小学校の児童を招いての調理実習を行った。また生徒や保護者を対象に食育講演会を開き、活動状況を発表した。	②今後は食生活の見直しやトレーニングとの関係性を探ることにより、食育を通した運動部活動等の充実を図りたい。		

安全・安心な信頼される学校づくりを推進する。	①事故・不祥事の防止に組織的に取り組む。	①事故防止研修会の充実により教職員の意識を高められたか。成績処理や入学者選抜等においてミスなく業務が遂行できたか。	①不祥事ゼロプログラムを策定し、事故防止会議や研修会を実施した。生徒の人権に配慮したカウンセリングに対する理解が深まった。全ての科目で統一した定期テストが実施された。教員に対しては早めに成績処理の手順プリントを配付し、徹底したことにより特に混乱することなく成績処理を行うことができた。面接検査や採点業務に工夫をした結果、予定通りに選抜業務を遂行できた。	①チェックリストを活用した業務全般に係る点検作業を充実させ、事故不祥事防止の取り組みを効果的に実施する。アンケートをもとに改善すべきものは早めに検討していく。入学者選抜のマニュアルの内容をより精査し、職員の共通理解を徹底させ、事故を防止する。	(保護者) PTAとして教育環境改善には尽力してきた。今後も学校とのコミュニケーションを大切にしながら環境改善について支援して行きたい。	(学校評価) ・不祥事ゼロプログラムに即して事故・不祥事防止の取り組みを実施したが、入選において採点ミスがあった。 ・40周年記念事業に絡めながら、破損箇所等を修復するなど、教育環境の整備を進めた。 ・生徒、職員の防災意識を高めるため、搬送訓練を避難訓練の内容に新たに加え、訓練の実効性を向上させた。 (改善方策等) ・入選採点の業務態勢について見直し、ミス再発を徹底的に防止する。 ・生徒が安全に快適に学校生活を送れるよう、教育環境の整備に取り組む。 ・有事の際に生徒が適切に行動できるよう防災訓練の内容を充実させるとともに、地域との連携を密にして行く。
	②PTA等と協力しながらトイレを中心とした教育環境の整備を進める。	②40周年記念事業実行委員会と協力し、トイレを中心とした教育環境の整備が進められたか。	②40周年記念事業実行委員会、及びPTAと協力し、トイレや昇降口、校門付近の整備を進めることができた。	②今後も様々な機会を利用して教育環境の更なる充実を図っていく。		
	③老朽化に伴う危険箇所等への対応を迅速かつ継続的に行う。	③校内の危険箇所を把握し、環境整備が行われたか。	③エアコン使用内規を新たに作成するとともに、湿度調節のための手動式スプレーを用意した。また、校内外の破損、危険箇所を確認し、整備を行った。	③エアコン使用については今後、加湿対策が必要と思われる。また、校内外の修理や危険箇所の把握は引き続き行い、安心・安全な学校生活を保障して行く。		
	④より実効性のある防災訓練の方法を模索するとともに、地域との協力を進める。	④防災に対する意識を高め、実効性ある避難訓練が実施できたか。地域の防災活動に協力できたか。	④災害や火災時における身の安全確保と怪我人搬送の訓練を実施し、適切な判断や行動を養った。地域の防災活動に2回参加することができた。	④災害時には避難訓練が生徒の安全に役立つので、より一層効果的、実践的な訓練計画を作成したい。		